



監修

秋田大学大学院医学系研究科長・医学部長
医学博士 本橋 豊

自殺を防ぐ地域力

悩む人々を救う ふれあいの輪



企画意図

うつ病患者数は年々増加傾向にあり、2008年には100万人を突破しています。しかし、実際にはうつ病であっても医療関係で受診しない人がまだ相当数いると考えられています。

うつ病は何らかの原因で脳の神経伝達システムに異常が起こって、生きる意欲を失う病気です。自殺に及ぶリスクが高く、その自殺者は、平成22年には31,655人で、平成10年以来13年連続で3万人を超えています。原因は経済・生活関連、健康(病苦)が過半数を占めます。自殺率を下げるためには、うつ病対策が効果的と考えられています。

そこで、この作品では、秋田県での取り組みを例に、行政や地域に今、求められている自殺防止、うつ病対策を紹介します。うつ病について正しく理解し、うつ病に気づき、患者を見守っていくようなシステムを地域で築くことが、自殺防止の第一歩となるのです。

映学社作品

監修者推薦の言葉

自殺対策(自殺予防及びうつ病対策)は、社会全体で取り組まなければならない緊急の課題です。医学的観点からは、自殺の背景にあるうつ病などのメンタルヘルス対策を推進していく必要があります。とくに、うつ病について正しく理解し、うつ病に気づき、患者を見守っていくような社会のシステムを築くことが求められます。秋田県では、官民学が連携して自殺やうつ病などに対する誤解と偏見を取り除き、誰もが生き心地のよい地域を作りあげていくことに取り組んでいて、着実に成果を上げてきました。その大きなポイントは、地域におけるつながりの強化であり、コミュニケーションです。地域の中で、悩みを抱えた人やうつ病の人を、一人にさせないという取り組みを行っています。この作品は、秋田県での自殺予防活動や自殺対策に取り組む人々の様子取材して、詳しく紹介しています。地域における自殺予防の取り組みのための最適な教材となっています。

秋田大学大学院医学系研究科長・医学部長
医学博士 本橋 豊

作品概要

■ある男性の自殺

秋田県北部のある町で自殺した男性の例を取り上げ、今、地域で起こっている現状を考える。過疎化、高齢者の村、近所づきあいが希薄などの理由で、高齢者の自殺が東北地方を中心に増えている。

■年間3万人を超える日本の自殺者

なかでも、秋田県は自殺率で平成7年以降全国1位が続いている。そこで秋田県では、県、市町村、大学、住民が連携して自殺予防対策に取り組み、着実に自殺者減少の成果を上げている。

■医療の立場から自殺予防に取り組む

秋田では医師会と秋田大学医学部が中心となって地域の医師と専門医の連携強化を進めてきた。内科を受診して、うつ病が見つからず、症状が悪化するケースを少しでも減らす目的だ。

■経営者の自殺予防に取り組む

全国の自殺者のおよそ1割が経営者と言われている。経営者の自殺対策とは？

■多重債務者の自殺対策に取り組む

多重債務者の自殺対策に取り組むボランティア団体を取材する。

■過疎地域の自殺予防に取り組む

高齢化と過疎が進む村では近年、自殺者が後を絶たないことを受け、役場の担当者が中心になり、自殺予防に取り組む住民グループを発足した。その様々な活動を追う。

■特定地域への集中的な自殺予防の取り組み

住民を対象に、アンケート調査を行い、心の問題を調べる自殺予防の試みは、自殺の危険が高い地域を特定し、自殺予防の効果を高めている。

監 修 秋田大学大学院医学系研究科長・医学部長
医学博士 本橋 豊

制作協力 東京メディアコネクションズ

取材協力 秋田県／八峰町
心といのちを考える会
NPO法人蜘蛛の糸
秋田なまはげの会

企画・制作統括 高木 裕己
プロデューサー 宇田川 東樹
脚本・演出 岩永 敏明
撮 影 君 武
ナレーター 保谷 果菜子
制作・著作 株式会社映学社

●価格 (DVD・23分)

・ライブラリー価格 ¥65,000+税
・2011年・映学社作品

●お問い合わせ、お買い上げは……



〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目7番8号らんざん5ビル
TEL: 03-3359-9729 (代表) FAX: 03-3359-4024
http://www.eigakusya.co.jp/